

# ミツバチを飼育する方々へ



ミツバチの飼育の際に気を付けること

**注意**

ミツバチの飼育は周辺住民や他の飼育者とのトラブルが起こる可能性があるので注意が必要です。

## 刺傷事故

- ミツバチが人を刺すこともあるため、周辺の人には飼育のことを伝え、**理解を得ておきましょう**。特に春から夏にかけては分蜂防止対策を講じる等、適正な群数の維持に努める必要があります。

## フンの被害

- ハチのフンにより、周辺住民の洗濯物や車を汚してしまうことがあります。**飼育場所の周辺には十分な配慮が必要です**。



## スズメバチ



- 秋になると、ミツバチを餌とするスズメバチが巣に飛来することがあります。スズメバチは攻撃性が強く、周辺の住民が刺されることがあるため大変危険です。

## ふそ病やバロア症(ダニ)などの被害

- 適切な管理を行っていないと、病気の温床となり、他の養蜂家にも影響を与えることがあります。マニュアル等を参考に適切に管理しましょう。また、**異常が見られた場合は近隣の家畜保健衛生所に連絡してください**。

## トラブルを起こさないために

日頃から周辺住民の方に対し、ミツバチを飼育することへの理解を得るためにコミュニケーションをとっておくことが重要です。また、トラブルを未然に防ぐこともできますので、養蜂協会が主催する講習会などで、飼育に関する知識や技術を習得するようにしましょう。

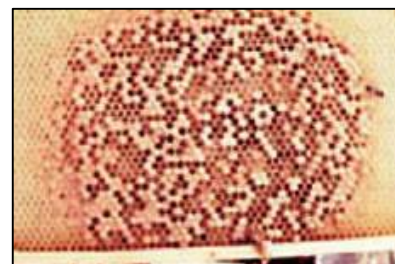
## 腐蛆病(ふそびょう)

- ◇アメリカふそ病菌やヨーロッパふそ病菌により発症する疾病で、家畜伝染病予防法により法定伝染病に指定されています。
- ◇蜂の幼虫が病原体を含む餌を摂取したときに、発症し死亡します。



←アメリカふそ病によって死亡した蜂児

感染していると棒を巣房に差し込み引き出すと糸を引いた状態になります。



↑ヨーロッパふそ病によって死亡した蜂児

## 感染予防

写真：(一社)日本養蜂協会より

- ◇ふそ病の発生蜂群は焼却し、本病のまん延を防止します。
- ◇盗蜂(ミツバチが他の巣の蜜を盗む行為)も感染原因となるため発生群の適切な処理が必要です。

## バロア症（ダニ）

◇ミツバチの外部に寄生するミツバチヘギータダニによる疾病で、届出伝染病に指定されています。

◇寄生したミツバチを弱らせて養蜂業に経済的被害を与えています。



ミツバチヘギータダニ

### 感染予防

◇感染予防には成蜂や蜂児の移動禁止などの管理が必要です。

◇寄生したダニを駆除するため、殺ダニ剤による薬剤処理等を行います。

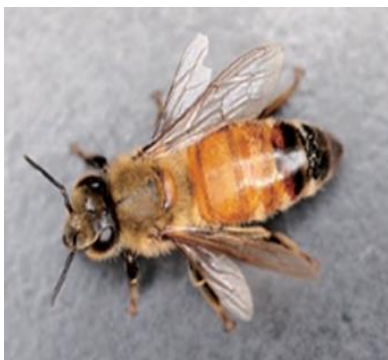
## アカリンドダニ症

◇気管に寄生するアカリンドダニによる疾病で、届出伝染病に指定されています。

◇寄生された蜂群からは、K字状翅が見られたり、重症化すると巣箱の周りに徘徊する個体が多く見られます。

◇アカリンドダニの寄生率は冬季に顕著であり蜂群消滅を導くことが多いため注意が必要です。

K字状翅



アカリンドダニ

### 感染予防

◇アカリンドダニに対して効果を示す薬剤はありません。

◇蜂を導入する場合は、本ダニが寄生していない清浄群から導入するようにしましょう。

◇養蜂器具を消毒し、器具を介した感染を防止することも大切です。

◇再発防止対策としてどの病気にも言えることですが、一度発生した巣箱はしっかりと水洗し乾燥させた後に火炎消毒する方法が有効になります。

写真：（一社）日本養蜂協会より